

リンゴ・モモで梅雨期に防除を共通化できる殺菌剤

福島県農業総合センター 果樹研究所

1 部門名

果樹 - リンゴ、モモ - 病害虫防除

2 担当者

三瓶尚子・藤田剛輝・尾形正・菅野英二・瀧田誠一郎

3 要旨

リンゴとモモの混植または隣接栽培において農薬飛散が問題となるが、この解決策としてリンゴとモモで防除薬剤を共通化することが考えられる。しかし、薬剤数に限りがあるため、慣行より散布間隔をあける必要がある。そこで、梅雨期が重点防除期となるモモホモブシス腐敗病、リンゴ輪紋病に残効性があり、リンゴとモモの両樹種に共通して使用できる殺菌剤を選抜した。

- (1) 2008～2009年の防除試験から、リンゴ輪紋病に15日程度の残効性があり、かつモモに登録がある殺菌剤として2008年はナリアWDG、2009年はナリアWDGおよびベルコート水和剤が選抜された(表1)。
- (2) 2006～2008年の防除試験から、モモホモブシス腐敗病に15日程度の残効性があり、かつリンゴにも登録がある殺菌剤としてナリアWDGおよびベルコート水和剤が選抜された(表2)。
- (3) 以上のことから、リンゴ輪紋病およびモモホモブシス腐敗病に対する防除効果が高く、15日程度の残効性があり、かつリンゴ・モモ両樹種に共通して使用できる殺菌剤としてナリアWDGが選抜された。

表1 リンゴ輪紋病に対する防除効果(2008年、2009年)

| 供試薬剤 | 希釈倍数 | 防除価 | |
|----------------|--------|-------|-------|
| | | 2008年 | 2009年 |
| デランフロアブル | 1,000倍 | 65.9 | 45.3 |
| ナリアWDG | 2,000倍 | 95.1 | 92.2 |
| ベルコート水和剤 | 1,000倍 | 67.7 | 96.4 |
| オキシラン水和剤(対照薬剤) | 500倍 | 75.6 | 91.4 |
| 無散布 | | | |

注1) 試験は果実接種試験を行い、28～59果を14日間25℃で保存した後調査した。

注2) 薬剤散布は2008年は6月10日、24日、2009年は6月16日、7月2日に行った。

表2 モモホモブシス腐敗病に対する防除効果(2008年)

| 供試薬剤 | 希釈倍数 | 防除価 | |
|----------------|--------|------|------|
| | | 11日区 | 15日区 |
| ストロビードライフロアブル | 2,000倍 | 81.6 | 65.9 |
| ダコニール1000 | 1,000倍 | 86.5 | 61.8 |
| トップジンM水和剤 | 1,000倍 | | |
| デランフロアブル | 600倍 | 77.5 | 50.6 |
| ナリアWDG | 2,000倍 | 95.5 | 86.5 |
| ベルコート水和剤 | 1,000倍 | 100 | 91.0 |
| ダコレート水和剤(対照薬剤) | 1,000倍 | 88.8 | 52.8 |
| 無散布 | | | |

注1) 試験は各区約40果9日間25℃で保存した後調査した。

注2) 薬剤散布は11日区は6月30日、7月11日、22日の計3回、15日区は6月30日、7月15日の計2回行った。

4 主な参考文献・資料

- (1) 北日本病害虫研報 57:114-117(2006)
- (2) 平成17～21年度福島県農業総合センター試験成績概要(2005～2009)